

自然豊かな小野路の里に、クラシック音楽とアートの発信基地があった。ピアノカフェのオーナー 岡 光昭氏とギャラリーショップの主催者 新川 ありささんに話を伺った。

ギャラリーショップ・ニジリス 新川 ありささんに聞く



ショパン (2F)&ニジリス (1F)外観[/caption]

小野路町にひっそりとたたずむ赤い瀟洒な建物がある。2Fはピアノカフェ（ショパン）、1Fには最近オープンしたギャラリーショップ・ニジリス（Gallery & Shop nijiris）がある。初の企画展「インナーワールド展～追憶する時の幻～」を訪問した。

ニジリスを企画・運営するのは新川ありささん。作家であり、アートプロデューサーも務める。新川さんに、ニジリス誕生の経緯を伺った。

「ネーミングには拘りました。ニジリスは幸福の象徴と言われる虹と、ギリシャ神話の天地を繋ぐ虹の女神イリスを掛け合わせた造語です。この名前には人と人、芸術と人、自然と人などを繋ぐ架け橋の意味も込めています。自然豊かな小野路でこそ発信できる、また楽しめる空間を作りたいと思い、名付けました。」

ニジリスを開くことになった経緯は、知人の作家からショパンを紹介されたのがきっかけだそう。ショパンを訪れた際、オーナーの岡氏から「ギャラリーをやってみませんか」と誘いを受けたのだと言う。



新川ありささん[/caption]

「それまでは作家としてのみ活動していましたが、岡さんからお誘いをいただいて自分を表現するとともに、頑張っている仲間の作家さんの応援をする場を持ちたいと思いました。それと、ギャラリーって敷居が高いと思う方も多いのですが、気軽に見て感じていただけるようなものを目指しています。」

今回の企画展の後も、常設展を挟みながら企画展（12月はクリスマスがテーマ）を実施して行くそう。常設展のほうはオーナーの岡氏所蔵の作品や、「インナーワールド展」にも参加している星野哲郎氏、新川さんの作品などを中心に展示される。取材日の11月16日時点でオープンから3週間ほど経過しているが、既に多くの方に来場いただいたそう。

「遠方からお越しいただいた方や、たまたま通りがかってお寄りいただいた方、2Fのピアノカフェにお越しいただいたついでに立ち寄った方など。時には作家さんから作品展示のお問合せをいただくこともあったり、様々な方々との思いがけない出会いがあります。今後も楽しみです。」

今回の企画展には、自身の他二人の作家が参加している。星野 哲郎氏と中野 愛菜さんだ。どちらも作家仲間。それぞれ作風が異なる作品が展示されている。



中野愛菜 作「seven energy」



新川ありさ 作「うたかたの日々」

「いっしょにやりたいと思う作家さんの条件は、上手い下手ではなくどれだけ情熱を持って作品に向き合っているか、ものづくりをされているかです。有名美大出でなくとも、独学でも情熱を持って創作されている方の作品は見る人の心に響きます。そういう作家さんを応援する場にしたいと考えています。」

「今後は、ニジリス以外でも展示を行っていきたい。今月(11月時点)町田のレンブラントホテルで、常設展示の作家さんの企画展を行う予定です。ギャラリー以外の場所も利用して、作家さんの作品発信の応援をしていきたいと思っています。」

展示作品は絵画に拘らないそうだ。彫刻などの造形物も含め、幅広くアート作品を扱っていく予定。とにかく敷居の高いところではないので、普段着姿で散歩のついでにでも立ち寄って欲しい。そして、そこで出会った作品を見て好きか嫌いを含め、自分がどう感じるかを素直に味わってほしいそうだ。

ピアノカフェ・ショパン 岡 光昭氏に聞く

小野路の地に、ピアノカフェを開いた経緯をお聞かせください



岡 光昭 氏[/caption]

ここに移る前は多摩市に住んでいたのだけど、もともと木彫りのデザインと材料販売の仕事をしていて、この近所に仕事場があったんです。そのうち土地を売り出すと聞いて、80坪の土地を28年前に購入しました。活動の拠点とするため、1年かけて自分でデザインをし今の家を建てました。

当初からピアノカフェだったのでしょうか？

当初はピアノレッスンのみでした。大人の社交場を作りたかったのです。そのうちに、里山100選に選ばれたりして小野路が徐々に注目を集めてきました。町外からも小野路を訪れる方が増え、うちの近所を散策する人も多くなりました。

そうなる、せっかく訪れていただいたのにピアノレッスン中はお入りいただくことも、お相手もできないわけです。それではもったいないと思い、16年前にピアノカフェに衣替えしました。名称も、それまでの「アートスペース岡」から「ピアノカフェ・ショパン」に変え、今に至っています。

店名を「ショパン」にした理由は？

ピアニストの東 貴良氏からアドバイスをいただきました。東氏はショパン協会国際連盟アジア諸国代表や、ウィーン国際ショパン協会理事を長年務められており、当店の選曲と店舗コーディネートは氏によるものです。ウィーン留学前によく当店を訪れピアノを弾いていました。留学後はウィーンにとどまり、活動を続けています。

「ショパン」オープン時（2006年）は、ピアニストのフィリップ・ジュジアーノ氏

が来店されて演奏を行いました。これも東氏の手配によるものです。ジュジアノー氏はショパン国際ピアノコンクールで最高位を受賞（1995年）した経歴を持つピアニストです。抽選で選ばれた約30人の観客の前で演奏するさまを、新聞社やテレビ局が取材しました。これで「ショパン」の存在が世の中に一気に広まり、大勢のお客様が訪れるようになりました。

毎週のようにピアニストが来て演奏していますが、どうやって募集しているのですか？

こちらから募集したり声をかけたりすることは、ほとんどありません。ピアニストから打診の連絡が来ます。時には海外から問い合わせが来ることもあります。クラシックのピアニストは、日本では発表の場が少ないのですね。特に海外留学から帰国し、日本で活動しようとする場合は本当に少ない。ライブハウスなどの演奏の場はあるけど、会場費を負担したうえに観客を集めなければならない。ショパンは彼らに無料で演奏の場を提供しています。小野路の自然に囲まれた環境とも相まって、演奏家にとっては魅力的な場所なのです。

それでは経営がなりたたないでしょう

ピアニストによる演奏会の他に、ピアノ伴奏で歌う会（注1参照）や外部の同好会や教室に会場を貸すことも行っています。（詳細はショパンへ問い合わせ）

昔はより多く使っていたかどうかとした時もありますが、今は欲を出さずのんびりと今のペースでやっていこうと思っています。

今後の抱負をお聞かせください

これまでも、多くのピアニストがショパンでの演奏をきっかけに世界に羽ばたいていきました。

山口友由美（ブラームス国際コンクール3位）もその一人です。彼女はウィーン音楽大学院・ピアノ科を最優秀で卒業し、現在は同大学でコレペティートル（注2参照）を務めているのですが、多忙ななかでも帰国時には必ずショパンで演奏してくれます。今後も将来性のある若手に演奏の機会を提供していきたい。

それと、1階に開設したギャラリーショップ・ニジリスも同様。新川さんの将来性に期待して企画の全てを任せています。僕は昔画廊関係の仕事もしていたので、才能を見る目はあるつもり。当分はこの2つをマイペースでやっていきます。（聞き手 齊藤）



注1：植村麻紀氏のピアノ伴奏による歌声喫茶

皆で懐かしい歌を一緒に歌う「歌の小箱」、お好みの曲をソロで歌う「歌の翼」。
問い合わせはショパンまで。

注2：コレペティトール

歌劇場などで、オペラ歌手やバレエダンサーにピアノを弾きながら音楽稽古をつけるコーチのこと。